

TAKE
FREE

クラシック音楽メディアのポータルサイト

レコード芸術 The Record Geijutsu ONLINE

FREE MAGAZINE
202608

特別企画「『指環』初演150周年」展開中♪



Johannes Brahms
(1833 ~ 97)



Richard Wagner
(1813 ~ 83)

CONTENTS

- 02 【新譜月評】2026年7月の特選タイトル一覧＋批評抜粋
- 06 【記事一覧】2026年6月22日～7月21日更新の記事一覧
- 07 【厳選！】編集部おすすめコンテンツ

★レコード芸術 ONLINE はこちらから→



制作：「レコード芸術 ONLINE」編集部

レコード芸術 ONLINE、フリーマガジン第 12 号です。 掲載記事 3,200 本*突破！ ぜひ有料会員登録をご検討ください♪

音楽之友社が運営するポータルサイト『レコード芸術 ONLINE』編集部フリーマガジンです。今号には、2026 年 7 月の「新譜月評」特選タイトル一覧＋批評抜粋、直近 1 ヶ月の記事一覧、編集部のおすすめコンテンツを収録しました。本サイトは月額 1,100 円（税込）。無料コンテンツも続々。クラシック音楽メディアの芸術史を未来へつなげる批評の場、そして現在を記録・発信する情報の場として、日々更新を続けています。

* 2024 年 10 月からの累計。新譜月評のディスクページを含む。2026 年 7 月 22 日現在

「レコード芸術 ONLINE」編集部

契約から最初 2 ヶ月間が 100% OFF となる「年間契約プラン」もお選びいただけます。
詳細は右側の QR コードから♪

レコード芸術 ONLINE はこちらから♪



<https://recogei.ontomo-mag.com/>

←の有料会員お申込みページはこちらから♪



<https://recogei.ontomo-mag.com/order/>

【レコード芸術 ONLINE 新譜月評】 2026 年 7 月の特選タイトル一覧＋批評抜粋

特選＝ダブル評を行ったもので、2 名とも「推薦」評価／筆者は敬称略、五十音順／特記のないものは通常 CD です



それぞれの批評全文＋他の音源（毎月 100 点近くが登場！）の批評は、
有料会員限定コンテンツとして
「レコード芸術 ONLINE」上で読みいただけます♪

https://recogei.ontomo-mag.com/disc_review/backnumber/202607/

●オーケストラ曲



ハイドン 2032 交響曲全集第 19 集

ジョヴァンニ・アントニーニ指揮イル・ジャルディーノ・アルモニコ
[アルファ (D) NYCX10592]

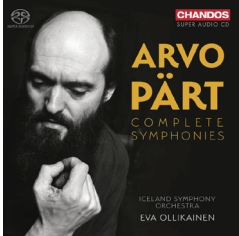
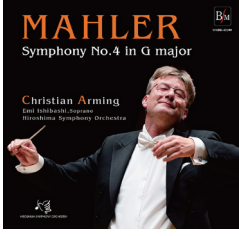
♪アントニーニのハイドン交響曲全集＋αの充実ぶりを示す一枚。しかも今回は、イル・ジャルディーノ・アルモニコを指揮して、短調の曲を中心に据えているとなると、大暴れの演奏を予想してしまうのだが「…」文字通り「予測不可能」な魅力が溢れている……（小宮）
♪テーマは「悲しみ」……《交響曲第 44 番》は、このオーケストラが初めて演奏したハイドン作品「…」同時にアントニーニがモダン・オーケストラに初めて迎えられた時に演奏した曲目で、彼にとってひとときわ意義のある存在であるという……（西村）

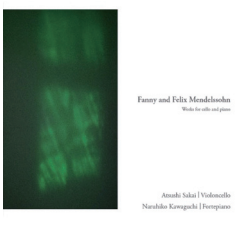


ラフマニノフ：ピアノ協奏曲第 2 番、他

小山実稚恵 (p) ドミトリー・ユロフスキ指揮
東京フィルハーモニー交響楽団 & フェドセーエフ・フレンズ
[ソニー・ミュージックレーベルズ (D) SICC19091] SACD ハイブリッド

♪ 2025 年 10 月にサントリーホールで行なわれた小山実稚恵の演奏会は、彼女のデビュー 40 周年記念公演で、今回そのライブ録音がリリースされた。これまで多くの CD をリリースしてきた小山だが、ライブ CD は初めてということらしい……（草野）
♪ラフマニノフのピアノ協奏曲を聴く機会が格段に増えた「…」傾向として「…」じっくりとひとつひとつの主題、パッセージを弾きこんで、作曲家が張り巡らせた音楽的創意を浮き彫りにする演奏をころざすピアニストが増えてきた。小山実稚恵の場合は……（広瀬）

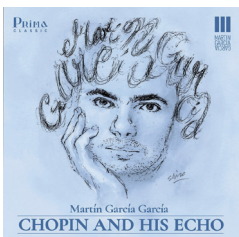
	メンデルスゾーン／交響曲全集，オラトリオ《パウロ》，《エリヤ》全曲 アンドリス・ネルソンス指揮 ライブツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団，ライブツィヒ MDR 合唱団，他 [グラモフォン (D) UCGG9240～46 (7 枚組)] SACD ハイブリッド ♪ネルソンスの最もすぐれた美質は「…」ひとりひとりの楽団員を最大限に尊重し、ひとりひとりが生み出す音楽に即応して自身の解釈をも適応させていくその技術、その懐の深さ「…」ゲヴァントハウス管弦楽団が有する音色、伝統、歴史といった様々な属性に対して……（広瀬） ♪現役の第 21 代カベルマイスター、アンドリス・ネルソンスとともに収めた、ゲヴァントハウス管弦楽団によるメンデルスゾーン・セットである。第 5 代カベルマイスターであるメンデルスゾーンと同団との強い結びつきは、夙に知られるとおり……（松木）
	アルヴォ・ペルト／交響曲全集 エヴァ・オッリカイネン指揮アイスランド交響楽団 [シャンドス (D) NYCX10591] SACD ハイブリッド ♪フィンランドの指揮者オッリカイネンが、首席指揮者・芸術監督を務めるアイスランド交響楽団を指揮して、アルヴォ・ペルトの 4 つの交響曲を演奏したアルバム「…」安定感のあるアンサンブルによって、それぞれの作品の魅力を的確に伝えてくれる……（増田） ♪「ティンティナブリ様式」確立以降に位置する第 4 番《ロサンジェルス》(2007～08) は、弦楽合奏、ハーブ、ティンパニと打楽器のための作品「…」静謐で精妙な響きに満ち、深い悲しみ、一条の光、冥想などが行きかい、そして……（満津岡）
	ドヴォルザーク：交響曲第 9 番《新世界より》， ワーヘナール：序曲《シラノ・ド・ベルジュラック》 ラハフ・シャニ指揮ロッテルダム・フィルハーモニー管弦楽団 [ワーナー・クラシックス (D) WPCS13893] SACD ハイブリッド ♪シャニとロッテルダム・フィルの演奏は、すでにいくつかの CD や 2025 年の来日公演を通して多くの方が耳にしていることだろう。シャニの解釈は伝統を重んじつつも、現代の潮流を見失うことがない。そうした特色は本盤でも強く出ている……（石原勇） ♪両者は「…」ワーヘナールの序曲《シラノ・ド・ベルジュラック》で初めてオランダの作曲家による作品を取り上げた「…」指揮者とオーケストラの距離感が心地良い「…」うってかわって、老練とすら形容したくなる《新世界より》での音楽運びは……（広瀬）
	マーラー：交響曲第 4 番，リヒャルト・シュトラウス：あした！ クリスティアン・アルミンク指揮 広島交響楽団，石橋栄実 (S) [ブレーン (D) OSBR42180] ♪毎年夏に行なっている「平和のタベ」コンサート、2025 年は、8 月 5 日に広島、7 日に大阪、8 日に東京で開催「…」当盤は、マーラーと、アンコールとして演奏されたりヒャルト・シュトラウスの歌曲〈あした！〉を収める。まず印象的なのが、広島響の音の美しさだ……（増田） ♪アルミンクと広響は、モーツァルトとコルンゴルトを組み合わせるシリーズ展開するなど注目すべき活動を行なってきたが、このマーラーの演奏も、きめ細やかな表情付けを通してウィーン的な芳醇さを引き出しているのが印象的……（満津岡）
	若杉弘 & 新日本フィル名演集 若杉弘指揮 新日本フィルハーモニー交響楽団，他 [東武レコーディングズ (D) TBRCD0191～4 (4 枚組)] ♪若杉弘「…」のライブ録音が次々とリリースされているのはうれしいことだ「…」曲目はいずれも 19 世紀の作品「…」1997 年のベートーヴェン《交響曲第 9 番》は名演だ「…」すみずみまでコントロールが行き届き、音楽に血が通っている。そして……（増田） ♪お恥かしい話だが、若杉弘が 1990 年代に新日本フィルにたびたび客演していたことを、自分はすっかり忘れていた「…」この 4 枚組は、このコンビの意外な相性のよさを、そしてあらためて若杉弘という指揮者の魅力を、教えてくれる……（山崎）

	ヴィオラのための室内楽作品集 タベア・ツィンマーマン (va) 他 [ハルモニア・ムンディ (D) HMM902789F] ♪シューマン夫妻とブラームスの作品を並べた音盤は珍しくないが、1853年における両者の邂逅を取り持ったヨーゼフ・ヨアヒムの作品をも含めているところに、本盤の特徴がある […] 《三重奏曲》 […] この演目が最大の聴きもの…… (船木) ♪ヴァイオリン曲をヴィオラで演じると、華やかな高揚感の代わりに、深く内省的な響きが前面に出る […] 作品のいずれもが暗く、内省的な性格をもつだけに、その特徴が一層強められる結果となっている。それにはタベア・ツィンマーマンのヴィオラの…… (芳岡)
	旅の思い出 フィリップ・ペロー (cl) アトムジカ四重奏団, 他 [アンデサンス・カリオペ (D) JIC109] ♪バーナード・ハーマン […] による演奏会用音楽のなかで、こんなにちなお演奏機会に恵まれているのが、クラリネットと弦楽四重奏のための《旅の思い出》だろう […] ペローは豊かで潤いのある音色を存分に聴かせつつ、この曲に立ちこめる郷愁と憂いに…… (相場) ♪ペローを中心としたフランスの演奏家たちのアンサンブルによる1枚だが、収録されているのはすべて20世紀のアメリカで生み出された室内楽作品 […] ペローの演奏は、ソリストというよりは室内楽の一員としてのアプローチを感じさせるもので…… (後藤)
	名器の響き～The Sound of Maestros 戸田弥生 (vn) 野原みどり (p) [MClassics (D) MYCL00075] SACD ハイブリッド ♪ここに登場するのはヴァイオリンの名器8挺 […] 各々の楽器に相応しいと思われる作品を、戸田弥生と野原みどりが演奏した一枚。データのにはそういうことだが、なるほど名器とはこういうものかということ、今更ながらに感じ入った次第である…… (石原立) ♪どの曲も作品・演奏とも優れているが、中心となるのは2挺のガエルネリ・デル・ジェスによる3曲だ […] 夜想曲における闇夜の緊張感や奇怪な雰囲気、タランテラでの凄まじい死の舞踏、悪魔的な旋律の性格表現など、いずれも圧巻である…… (芳岡)
	メンデルスゾーン姉弟／チェロとピアノのための作品集 酒井淳 (vc) 川口成彦 (fp) [Acoustic Revive (D) AR1012] ♪酒井淳が川口成彦とメンデルスゾーン姉弟のチェロ作品に取り組んだ […] 《ソナタ第1番》。酒井のチェロの伸びやかでしなやかなフレー징が早く、闊達で靈感に溢れた川口のピアノと交し合う音楽的な対話がすばらしい。ともに語り口は洗練され…… (那須田) ♪チェロは作者不詳の19世紀のドイツの楽器だというのが、古楽演奏でしか出せない、太く、甘く、温かい音色がする。自由に振る舞うチェロの演奏に川口が見事に呼応して応える […] 縦横無尽に幅広い音域を駆け巡るテクニックといい、見事である…… (鷲野)
	カタロニアの詩～カザルス & カサド、チェロとピアノのための作品集 ルイス・クラレット (vc) 岡田 将 (p) [299 MUSIC (D) NIKU9077] ♪ルイス・クラレットの名付け親はあの大チェリストのカザルスであり […] カザルスの弟子であるカサドと並んで、スペインの血を受け継ぐチェリストとして活躍 […] 岡田将と組んだCDは「カタロニアの詩」と題して、カザルスとカサドの小品集を組み合わせた…… (草野) ♪前半のカザルスによる小品は […] 作品のロマンやチャーミングな表情を、無理な誇張なくしかしたっぷりと聴かせてくれる […] 加えてぐっと聴かせるのは、作品の内容的に段違いの濃さを持つ後半のカサド作品だ。まず《パルティータ》は…… (山野)

【現在の新譜月評執筆陣】 ※敬称略、五十音順

相場ひろ 飯田有抄 石原立教 石原勇太郎 小畑恒夫 岸純信 喜多尾道冬 城所孝吉 草野次郎 河野典子
 國土潤一 後藤洋 小宮正安 小室敬幸 白石美雪 鈴木淳史 長木誠司 長井進之介 那須田務 新野見卓也
 西村祐 沼野雄司 野平多美 広瀬大介 布施砂彦 船木篤也 増田良介 満岡信育 松平敬 水谷彰良
 美山良夫 八木宏之 矢澤孝樹 安田和信 谷戸基岩 山崎浩太郎 山野雄大 山之内正 芳岡正樹 鷲野彰子

●鍵盤曲

	ベートーヴェンとの旅路 川口成彦 (fp) [シグナム・クラシックス (D) JSIGCD1001] ♪ 初期の作品番号なしのソナタや晩年のバガテル、幻想曲、交響曲の編曲を、音域や性能が異なる3台のオリジナル楽器（グランド型はウィーン式）で弾いている […] 敢えて小品や編曲作品を選んだのは、作曲家の私的な素顔を描き出したいという想いが……（那須田） ♪ フォルテピアノで演奏するベートーヴェンというともまず思い浮かべるのは32曲であろうが、ここで演奏される15曲の多くはWoO.番号（作品番号なしの作品）をもつ曲で構成される […] 次から次へと、これまでに気づけなかったような……（鷲野）
	エリザベート王妃国際音楽コンクール 2025 ライヴ ニコラ・メーウセン (p) 他 [フーガ・リベラ (D) NYCX10593] ♪ 2025年のエリザベート王妃国際音楽コンクールを制したのは、同コンクール初のオランダ人覇者となったニコラ・メーウセン。23歳の若さである […] 聴き進めるほどに、深く驚嘆させられる。とりわけ圧巻は、リストの〈ダンテを読んで〉だ……（飯田） ♪ 最初 […] はメーウセンが14歳の頃から弾き続けているというメンデルスゾーン《厳格な変奏曲》だ。透明感を保ちながらも陰影を帯びた主題の響きが、聴き手を一気に彼の音楽世界へと引き込む。変奏が進むにつれ現れる多彩な技巧も……（長井）
	ショパン・アンド・ヒズ・エコー マルティン・ガルシア・ガルシア (p) [プリマ・クラシック (D) PRIMA0077S] ♪ 本盤の核心に据えられているのは、モンポウの《ショパンの主題による変奏曲》である。耳を傾ければ、この音楽がまさしくショパンの「こだま（エコー）」であることが実感され、アルバムタイトルが変奏曲を主軸に置いたものであると腑に落ちる……（飯田） ♪ もちろん彼ほどのピアニストを未熟と難じようとは思わないが、彼の音楽にはつねに彼の「いま」が映し出されていて、それは成熟とは異なるみずみずしさに輝いている。アルバム前半に置かれたショパン《4つの即興曲》では……（新野見）
	第9回仙台国際音楽コンクール ピアノ部門優勝 エリザヴェータ・ウクラインスカヤ (p) [フォンテック (D) FOCD9935] ♪ 時代も様式も大きく隔たる作品を一枚に収めた、密度の高いリサイタル・アルバム […] 第9回仙台国際音楽コンクールを制したウクラインスカヤは、それぞれの作曲家の語法を鮮明に描き分けながら、全体を貫く物語性をも立ちのぼらせる……（飯田） ♪ ラモー《新クラヴサン曲集》では、繊細なタッチと装飾音のデリケートな扱いが際立つ。モーツァルトの《変奏曲》では、彼女が持つ明るく輝かしい音色が生き、一音一音の色彩が鮮やかに浮かび上がる。軽快な運びの中にも主題の旋律を丁寧に扱い……（長井）

●現代曲／ポスト・クラシカル

	安らぎは得られない～ニコ・ミューリー／合唱作品集 ピーター・フィリップス指揮タリス・スコラーズ [リン・レコーズ (D) NYCX10578] ♪ ジョン・タヴナーやアルヴォ・ペルトといった現代作曲家の作品も得意としているピーター・フィリップスとタリス・スコラーズが、1981年生まれのアメリカの作曲家ニコ・ミューリーの作品を集めた […] 極めて個性的な作品というわけではないが……（國土） ♪ 古雅な音楽への瞑想的な眼差しに満ちたペルトの音楽に対し、ミューリーのポップな音楽性は、タリス・スコラーズのサウンドとの結びつきをイメージしにくいかもしれない。しかし、実際にアルバムを聴いてみると……（松平）
---	--

※今回は「オペラ／声楽曲」「音楽史」の特選はありません

【レコード芸術 ONLINE】

2026 年 6 月 22 日～7 月 21 日更新の記事一覧

※有料会員限定コンテンツを含みます

【お知らせ】

- ・「レコード芸術 ONLINE」編集部が「ONTOMO Radio」に出演♪
- ・フリーマガジン第 11 号配布開始！

【ニュース】

- ・【2026 年 7 月リリース予定】クラシック音楽新譜 発売情報
- ・東京オペラシティ「タケミツ メモリアル」ほか、いよいよ再開＋編集部の注目公演
- ・クラシック音楽 海外盤リリース情報（2026 年 7 月）

【2026 年 6 月新譜月評】

- ・音楽史、現代曲／ポスト・クラシカル、その他

【2026 年 7 月新譜月評】

- ・オーケストラ曲、室内楽／器楽曲、鍵盤曲、オペラ／声楽曲

【最新盤レビュー】

- ・サラステ、フィンランド放送響との 2 度の録音から 30 年以上を経て三度目の“結論” | 松原千振
- ・クラシック リイシュー & BOX 注目盤（6 月） | 編集部
- ・バッティストーニ&東京フィルの注目録音 リヒャルト・シュトラウス《アルプス交響曲》を聴く | 内藤真帆
- ・新世代の本格派ギタリスト山下愛陽「夜の静寂」の世界に誘なうコンセプト・アルバム | 東端哲也
- ・配信限定！クラシック音楽注目タイトル（2026 夏） | 編集部

【インタビュー】

- ・福岡光太郎が語る『ピアノ・トランスクリプションの世界』に込めた音楽そして舞踊への敬愛 | 長井進之介
- ・樫本大進が語る ヴィヴァルディ《四季》：ベルリン・バロック・ゾリステンと描く 4 つの情景 | 山崎浩太郎

【レポート】

- ・ピアニスト 伊藤順一による、ショパンのピアノ独奏作品全曲録音プロジェクトが始動！

【ブラームス 4 つの交響曲】

- ・ブラームス：交響曲第 1 番 & 第 2 番「超」入門 | 坂入健司郎 & 石原勇太郎
- ・ブラームス：交響曲第 3 番 & 第 4 番「超」入門 | 坂入健司郎 & 石原勇太郎
- ・読者アンケート企画 第 11 弾「私だけのブラームス交響曲全集」結果発表！ | 読者の皆様
- ・どこへ行く？アフターコロナのブラームス交響曲 | 小室敬幸
- ・20 世紀の名匠 100 傑ブラームス 1000 本ノック | 編集部

【N 響に登場した巨匠指揮者列伝】

- ・第 1 回 ロヴロ・フォン・マタチッチ | 満岡信育

【《指環》初演 150 周年】

- ・バイロイト音楽祭 2026 の注目指揮者たち | 編集部
- ・150 年目の“ワグナー・ヒロイン”——イゾルデとブリュンヒルデの名唱史 | 堀内修
- ・21 世紀のワグナー・テノール像——リレーのバトンは引き継がれたか？ | 広瀬大介
- ・2 人のワグネリアンが語るワグナーの魅力 Part1 & 2 | 藤田真央 & 広瀬大介

【特別企画】

- ・アクセスランキング『レコード芸術 ONLINE』2026 年 4 月～6 月 | 編集部
- ・宇野功芳のオーディオ——「空気録音」で追体験する“批評の現場” | 芳岡正樹

【連載】

- ・クラシックレーベルの 100 年 第 1 回 LP によるレーベル拡大期（1950～60 年代）その 1 | 山崎浩太郎
- ・トーキョー・モデュレーション 第 20 回 黒ビールの工場が実験音楽の拠点になる | 沼野雄司
- ・女性作曲家に魅せられて 第 6 回 エレーヌ・ド・モンジェール 生涯・作品編 & 録音編 | 小林緑 & 谷戸基岩
- ・名演奏家再批評 File06 使用楽譜からみるメンゲルベルク④ | 内藤真帆
- ・名演奏家再批評 File07 とある 2 つの「ロシア・ピアノズム」①～② | 山本明尚

【レコ芸アーカイブ】

- ・『レコード芸術』新譜月評クロニクル 第 4 回 1976 年（前篇）1 月号～4 月号 | 芳岡正樹
- ・名演奏のディスコロジー 第 7 回（1976 年 7 月号）知られざるロマン派の名人芸 | 柴田南雄
- ・名曲名盤 300/500 総集篇 Vol.4 ブラームス：交響曲第 1 番 & 交響曲第 4 番 | 編集部
- ・名曲名盤 300/500 総集篇 Vol.5 モーツァルト：交響曲第 40 番 & ピアノ協奏曲第 20 番 | 編集部

【厳選！】編集部おすすめコンテンツ

[ブラームス 4つの交響曲]

坂入健司郎と石原勇太郎の

ブラームス：交響曲第1番&第2番「超」入門

お話：坂入健司郎（指揮者）&石原勇太郎（音楽学）

投稿日：2026.06.23

一部有料会員限定コンテンツ

[このディスクが登場します]

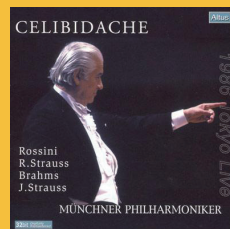
『チェリビダッケ 1986 年来日ライブ』

セルジウ・チェリビダッケ指揮

ミュンヘン・フィルハーモニー管弦楽団

〈録音：1986年10月（L：東京文化会館）〉

〔アルトゥス（D）ALT141〕CD ※現在取扱なし



ここから読めます♪

（「第3番&第4番」へのリンクあり）

特別企画シリーズ「ブラームス 4つの交響曲」！今年2026年、1876年11月4日の交響曲第1番初演から150年を迎えることを記念して、その交響曲群を深めます。

今回の記事は、坂入健司郎さんと石原勇太郎さんの対談。気鋭の活動が続けるおふたりに、4作品の魅力や、演奏することの難しさ、そして聴きどころについてディープに語っていただきました。

第1番の箇所のみ無料公開！残りは有料会員限定コンテンツです。

[N響に登場した巨匠指揮者列伝]

第1回 ロヴロ・フォン・マタチッチ

文：満津岡信育（音楽評論）

投稿日：2026.06.29

無料コンテンツ

[このディスクが登場します]

『ワーグナー／管弦楽曲集』

ロヴロ・フォン・マタチッチ指揮 NHK 交響楽団

〈録音：1968年9月〉

〔デンオン（タワーレコード）（S）TWSA1182〕SACD ハイブリッド



ここから読めます♪

2026年に創立100年を迎えるNHK交響楽団の歴史は、巨匠たちとの出会いの歴史でもあります。

本特集では、N響の舞台を彩った名指揮者を各回一人ずつ取り上げ、その人物像、芸術の真価、そしてN響との代表的録音までを総覧。演奏会の記憶とディスクを結び付けながら、日本のクラシック音楽史の豊かな系譜を読み解いていきます。

第1回はロヴロ・フォン・マタチッチです。

【《指環》初演 150 周年】

藤田真央×広瀬大介 2 人のワグネリアンが語る ワーグナーの魅力 Part1 & 2

お話：藤田真央（ピアニスト）
& 広瀬大介（音楽学・音楽評論）
投稿日：2026.07.21
有料会員限定コンテンツ



ここから読めます♪

[このディスクが登場します]

『ワーグナー＝リスト：歌劇《タンホイザー序曲》，他』

藤田真央（p）〈録音：2014 年 9 月〉[ナクソス（D）NYCC27296] CD

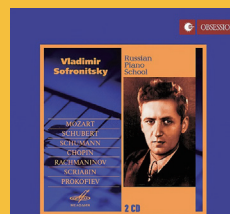
藤田真央さんと広瀬大介さんのオンライン対談。異色の組み合わせと思われるかもしれませんが、実はワグネリアン（ワーグナー愛好家）という共通点があります。

おふたりのワグネリアン遍歴、バイロイト体験、そして藤田さんのピアノ演奏に、ワグネリアンとしての横顔が与えた影響……さまざまなお話が飛び出しました。Part1 と 2 の二部構成です。

[連載]

名演奏家再批評 File07 とある 2 つの「ロシア・ピアノズム」 ソフロニツキーとユージナ①

文：山本明尚（音楽学）
投稿日：2026.07.10
無料コンテンツ（2 回目以降は有料会員限定コンテンツ）



ここから読めます♪
(1 回目)

[このディスクが登場します]

『ロシア・ピアノ楽派～ヴラジーミル・ソフロニツキー』

ヴラジーミル・ソフロニツキー（p）

〈録音：1960 年 5 月 13 日（L），他〉

[Melodiya x Obsession（S）SMELCD1000747（2 枚組，海外盤）] CD

金曜連載「名演奏家再批評」第 7 弾。音楽学者・山本明尚さんが、「ロシア・ピアノズム」のピアニストとして並び称されるヴラジーミル・ソフロニツキーとマリヤ・ユージナを、それぞれの録音観に着目して再批評していきます。全 4 回のうち、1 回目は無料公開、2 回目以降は有料公開です。

レコード芸術 ONLINE に広告を出してみませんか？

様々なプランをご用意しています。まずはお問合せください♪

お問合せ先：
(株) 音楽之友社「レコード芸術 ONLINE」編集部
〒162-8716 東京都新宿区神楽坂 6-30 / E-mail: reco_online@ongakunotomo.co.jp

【レコード芸術 ONLINE 公式 SNS のご案内】

記事の更新情報などを発信しています♪

また、お読みになったご感想を、#レコード芸術 ONLINE を添えてぜひご投稿ください。

